

モーターボート競走

30

年史

売上篇

総論

は・じ・め・に

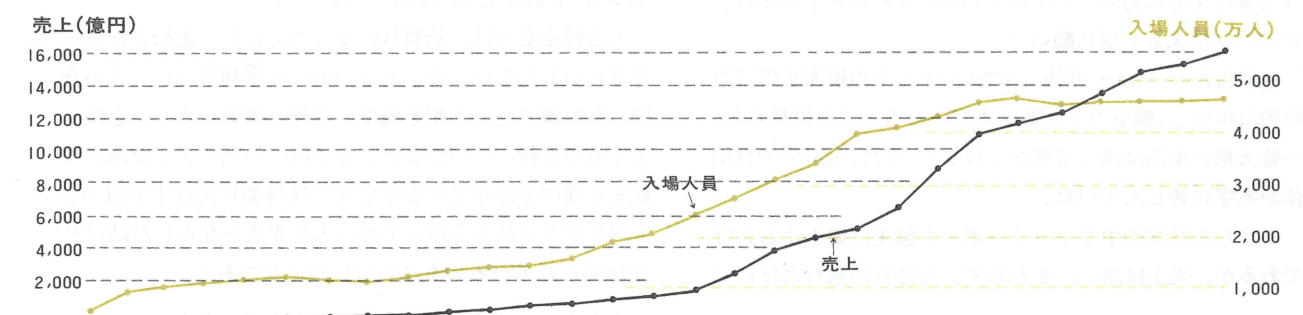
モーターボート競走法は非常な難産の末、昭和26年6月制定公布され、翌27年4月6日、長崎県大村市において初めて開催された。

開催初日はもの珍らしきもあって、8,226名という入場者があったが、売上は260万円と関係者の思惑を下回る結果となった。しかし、日本ではもちろん世界でも初めての、「公営競技」として実施されたモーターボート競走という面から見れば、今後に期待を持ち得る売上ではあった。

それから30年を経た今日、年間の売上は1兆6,300億円、1日売上記録は29億1,700万円に達するまでに成長をした。30年という年月は決して長いとは言えないが、売上面か

ら見る限り、年間売上では24億円から1兆6,300億円に、1日売上では開催初日の260万円から現在の売上記録29億1,700万円へと、その差はあまりにも大きく、競走場数、開催日数等も大きく変化しており、一つの基準で比較することは無理を生ずる。

今回、連合会創立30周年を記念して売上記録をまとめるに当たっては、便宜上、昭和27年～33年度までを「草創期」、34年～40年度までを「第一成長期」、41年～48年度までを「第二成長期」、49年～55年度までを「安定成長期」と分類し、それぞれの期間の「特徴」をまとめ参考にと供することとした。



年度	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	年度
モーターボート	大村競走場で初開催	全日本選手権競走開催	級別決定基準制定	自衛対策研究会開催	琵琶湖養成所解散	連合会で選手養成	売上向上対策	二十秒計発明考案される	審判自動化始まる	フライング、返還となる	交付金案項、恒久法に	ギャンブルホリデイ設置	一日売上一億円を突破	選手養成五ヶ月に	善導運動開始	スタート制限一秒になる	騒音事件が統廃する	万国博協賛レース実施	選手養成一年に	BGプラン発表	広報対策各地で積極化	10レース制を実施	待機行動2分になる	売上公営競技のトップに	あかせん保留基準八号制	年間優秀選手表彰式典	大時計十二秒針に	F・L同等規制答申される	優等選手講習会実施	
社会一般	メーデー事件	TV放送始まる	国家予算一兆円を超える	経済規模戦前に復帰	神武景気始まる	なへ度景気	一万円札発行	岩戸景気	所得倍増計画発表	東京株式市場大暴落	全国総合開発決定	ケネディ大統領暗殺	戦後初の赤字国債発行	人口一億人を突破	革新美濃部都知事誕生	郵便番号制開始	アポロ人類初の月着陸	万国博開催	ニクソンショック	円の大円切上げ	石油危機が到来	不況が続き倒産続出	沖縄海洋博開幕	景気回復中だるみ	戦後最大の不況	円高戦後最高	東京サミット開催	日米自動車摩擦		

- はじめに.....1
- 草創期(昭和27年度～33年度).....2
- 第一成長期(昭和34年度～40年度).....4
- 第二成長期(昭和41年度～48年度).....7
- 安定成長期(昭和49年度～55年度).....10

昭和27年度(大村)	14
昭和28年度(若松)	16
昭和29年度(多摩川)	18
昭和30年度(児島)	20
昭和31年度(狭山)	22
昭和32年度(琵琶湖)	24
昭和33年度(鳴門)	26
昭和34年度(半田)	28
昭和35年度(福岡)	30
昭和36年度(江戸川)	32
昭和37年度(平和島)	34
昭和38年度(芦屋)	36
昭和39年度(特別レース)	38
昭和40年度(戸田)	40
昭和41年度(尼崎)	42
昭和42年度(浜名湖)	44
昭和43年度(三国)	46
昭和44年度(津)	48
昭和45年度(下関)	50
昭和46年度(桐生)	52
昭和47年度(連合会)	54
昭和48年度(宮島)	56
昭和49年度(唐津)	58
昭和50年度(常滑)	60
昭和51年度(蒲郡)	62
昭和52年度(丸亀)	64
昭和53年度(浜名湖)	66
昭和54年度(住之江)	68
昭和55年度(徳山)	70

- 公営競技別売上表.....73
(昭和27年度～55年度)
- 競走場別(年度)売上表.....78
(昭和27年度～55年度)